

# 長野県 八重原米研究会

JGAP



**OGAP手法取組の概要(取組開始時期、品目)**  
東御市八重原地区の若手稲作生産者3名で組織する研究会。発足は平成19年8月。ある研修会でGAPの存在を知り、経営改善に役立つと判断。20年春から取得準備を進め、同年12月にJGAPを3人が取得。

## OGAP手法導入のきっかけ、経緯

・八重原米のPR方法を模索していて、肥料メーカーの勉強会でGAPの存在を知る。販路拡大、農作業ロスの低減、自信をもって販売するための裏づけになるとして導入。

## OGAP手法導入に関し、工夫した点等

・JGAPの視察研修(新潟、東京)を実施。各栽培工程での危険要因を洗い出し。

## OGAP手法導入によるプラスの効果等

- ・的確な安全管理による農産物の安全性確保と産地の信頼向上
- ・農作業の工程管理と資材管理による作業の効率化と農業経営の改善
- ・記録からリスク管理措置の実施内容について事後の検証が可能

## ○実践者からのコメント

- ・農場で作業する全員に徹底するのに苦労した。
- ・企業で当たり前に行う管理を農作業に取り入れた。安心な農産物を出荷できる。
- ・農産物を改めて食品として見直すことができた。
- ・習慣的に行われていた作業の見直しとルール化、作業工程のデータ化が可能となるため、農作業の効率化が図られる。

